

まじゅん

編集責任者 西銘 隆 (田崎病院)

編集者 石川 淳 (新垣病院)

送信者 兼浜 克弥 (なんくる)

E-Mail oki-psw@nirai.ne.jp

沖縄県精神保健福祉士協会 86号

2013年3月定例会報告

日時：平成25年3月9日(土)

会場：沖縄県総合福祉センター 東棟501 (参加者12名)

テーマ：**ゲートキーパー養成研修**

講師：富里 トモ子氏 (総合精神保健福祉センター 主幹)

國井 昭男氏 (沖縄県臨床心理士会)

【概要】

ゲートキーパー養成講座について、自殺の原因・動機について統計から考える。SOSのサイン、面談技法について良い対応、悪い対応等お話頂きました。



【感想】 報告者：サマリヤ人病院 亀谷剛正

今回の定例会は朝10時より、県総合福祉センターにて行われ、「ゲートキーパーの活動内容」について学ぶことができました。

日本における年間自殺者数の推移では、平成10年以降30,000人を超える高い水準で現在まで推移しているという現実があります。

これは主要国の中でも高い水準にあり、いかに日本が自殺大国であるかを改めて感じるとともに、事態を重く受け止めて考えていかなければいけない問題だと思いました。

自殺の原因・動機には健康問題、経済・生活問題、家庭問題等様々な原因・動機があります。悩みも人それぞれで周りから見たら悩みの原因にならないようなことでも深刻な悩みに発展することがあります。悩みの尺度はそれぞれで、更に隠れた悩みもあるため、悩みを抱える人のSOSのサインにいち早く気付いて、支援の手を差し伸べることが大切なポイントであるということを学びました。

面談についてはビデオで良い対応と悪い対応の場面を観て、日々の仕事で関係しているインテークの場面と重ねながら観ることで、復習的に学ぶことも出来ました。

今回の「ゲートキーパー養成研修」は援助者として日々の業務と共通する面も多くあり、実践に役立てる研修であったと思いました。

2013年4月定例会報告

日時：平成25年4月13日（土）10：00から

場所：沖縄県総合福祉センター501 教室

テーマ：精神保健福祉からみた子ども支援

講師：知名孝氏（沖縄国際大学人間福祉学科 NPO 法人ぺあさぽと）

参加数：45名

【概要】

- ・発達障害児の診断・支援
- ・思春期以降の子どもたちの発達障がいの問題
- ・ペアレントトレーニング
- ・児童デイでの活動例（短期入所・就労移行支援・成人アスペルガーの会など）



【感想】 報告者：沖縄中央病院 平良真衣子

これまで地域からの発達障害児の支援に関する講演を開く機会がなかったため、とてもたくさんのお話を学ぶことができました。

- ・支援者よりも当事者同士の関わり、“ふつう”の遊びや喧嘩、仲直り・勉強・失敗などを経験し、“ふつう”の生活をいかに豊かにしていくかが大切。
- ・発達障害の子どもは強いこだわりや偏りは私たちの趣味選びが自然とまわりの人と同じような共通の趣味を無意識に選ぶことにより、周囲とは違うことに興味を持つこと自体が目立ってしまう？
- ・診断ではなく、生活支援を主とする。

支援を行う上での病名も重要な情報の一つとなるが、病名に偏らずに個人の内面を支援していく。その支援方法であれば、様々なタイプの子どもの発達を様々な方法で支援していくことができる。それは両者ともによりよい環境・関係を築くことにつながっていく。

また、身近な環境の中でどう支援していくのか。これは発達障害支援に限らず、他の分野でも言えることだと思います。

【感想】 報告者：沖縄中央病院 大城恵梨子

発達障がいについての相談や質問が増えてきている中で発達障がいの診断から支援までのお話を聴くことができ様々なことを学ぶ機会となりました。

発達障がいの診断は心理検査だけではなく日常生活の行動など成育歴が大きく影響すると知ることが出来ました。しかし、思春期を境に行動の特徴も大きく変化する為に児童期とは異なる問題、困りが生じてくるということも知りました。行動の特徴や成育歴が本人の性格なのか障がいによるものなのか曖昧で線引きしにくい、診断しづらい障がいだと感じました。児童期よりも思春期以降の方と関わる機会の方が多いために発達障がいだけではなく、思春期以降の問題であるひきこもりやうつ病、パニック障がいなど2次障がいも視野に入れて関わる必要があると思いました。病院やクリニックで診断をつけたからといって支援できるものではなく、行動の特徴からくる本人の困り、生きづらさを病院以外の社会資源（地域、職場など）が共有する事が支援していく中で重要な部分でありポイントではないかと感じました。講演のなかで「非日常的な専門性ではなく日常的な普通の生活をいかに豊かにするか？」という言葉が印象的でした。発達障がいの方だけではなく、私たちが支援する対象の方すべての人に対しても接する上で基本的な考えだという事に気付かされた講演会でした。

2013年7月定例会報告

日 時：平成25年7月27日（土）13:00～17:00

場 所：沖縄国際大学 13号館 301教室

テーマ：**精神保健福祉法改正を踏まえて～精神保健福祉士に求められるもの～**

講 師：田村綾子氏（聖学院大学）

実践発表：笹木徳人氏（新垣病院） 堤麻美氏（天久台病院）

熊谷晋氏（北谷町地域活動支援センターたんぼぼ）

【感想】報告者：宮里病院 西口武志

自分自身3年ぶりの定例会参加。今回参加しようとしたきっかけは、自身が部署異動し、精神保健分野へ戻ってきたことに加え、定例会のタイトルに「それでも精神保健福祉士やっています」という興味深い言葉があったためであった。今回田村先生の講演内容が精神保健福祉法改正にみるPSWの役割であり、拝聴するまでは自分自身もPSWの役割がどう大きく変動するのかと疑問を抱いていた。

実際、医療保護入院の保護者制度廃止などの点などは、現場レベルで色々と問題・課題も出てくるとは思うが、田村先生の講演を聞き、変わりゆく時代の中でもPSWとしての本来の自分たちの姿勢は変わらず専門性を磨きながら、支援を必要としている人たちと向き合っていくことが必要なのでは・・・と感じることができた。また3名のPSWの方々が普段行っている実践を報告してくださったが、これはとてもいい刺激になった。丁寧且つ、あきらめずに取り組む支援を、とても聞きやすい語りで堤さんが話され、枠に囚われずに利用者主体の支援を行っている報告を、聞き手側が飽きさせない内容で話して下さった熊谷さん、そして成年後見人という本当に貴重な業務を本来の業務の傍ら実践している報告を、時に笑いを取り入れながら聞きやすく話して下さった笹木さん。久々の参加でこれだけボリュームいっぱい刺激をもらい、お腹いっぱい、胸いっぱいの定例会であったし、参加してよかったと数年ぶりに感じた。田村先生、3名のPSWの方々には、心から「ありがとうございました」とこの場でお伝えしたいと思います。



2013年8月定例会報告

日 時：平成25年8月24日（土）10:00～12:00

場 所：ソーシャルサポート アソシア

テーマ：**長期入院を経て退院後、入退院を繰り返す方の支援について**

事例提供者：昌川安希子氏（琉球病院）

進行役：唐木増久（保護観察所）

【概要】

琉球病院昌川さんより、「長期入院を経て退院後、入院を繰り返す患者さんの今後の支援について」議題を提示していただき、約25名の精神保健福祉士による事例検討会を行った。

形態はグループワークを主とし、6～8名を1グループとして3グループを構成。まず昌川さんより全体へ事例の概要、ケースの情報について説明を受けた。全員でケース概要について確認し、疑問があれば直接質疑応答を行い、個々の意見をグループ内で共有した。最後にグループの意見をまとめ発表を行った。



【感想】報告者：沖縄中央病院 仲村くらら

精神保健福祉士の資格を取得し、入職も含めてまだ4ヶ月弱。事例検討会への参加は今回が初めてであり、明らかに周囲より知識も経験も情報も不足している私がグループワークへ参加してもいいものなのか、当初は戸惑いのなかグループワークに臨んだ。しかし各領域で活躍する先輩方から「あなたはこの事例を聞いてどう感じるのか?」「このケースを聞いて、どのような支援を提案したいか?」など、未熟者な私にも声をかけて下さり、私にも“PSWとしてできることは何か?”を自分に問うことができた。また1つの事例に対し、それぞれが考える支援の目を共有したり、他病院や他機関に所属する自分以外のPSWが、どのように環境資源を活用しているのか、他職種と連携を図っているのか等の意見交換をするなど、今後の自分の職務にとっても非常に参考になる情報を頂ける機会でもあった。

毎年1回しか行われないうグループワークに参加に参加させて頂き、PSWとして多様な領域で活躍する先輩方、今後の自分の目指すPSW像をより具体的かつ、より幅広い目を意識付けさせられた貴重な1日であった。次回のグループワークでは厚みのある発言ができるよう、これからも日々の業務に真剣に取り組んでいきたい。

【感想】報告者：精和病院 根間辰弥

今回の定例会は事例検討会とアソシアの施設見学でした。

事例検討会を通し退院支援を行っていく上では、本人の意向だけでなく、家族の意向、また地域と様々な要因が複雑に絡んでくるというのを改めて感じました。

患者さん本人やご家族に対してどうアプローチしていったらいいのか、また地域とどう関わりながら支援していけるか、私も医療機関で勤務しており同じようなケースで悩むことも多々あるので、各グループからの発表はとても参考になりました。

特に印象に残ったのが、PSWとしての見立てや見解を持って支援していくという事。チームとしての方針がなかなか決まらない場合に他職種の意見に流されるのではなく、PSWとしての視点で意見や見解を述べていく。そこにPSWとしての専門性があるということです。そのためには知識はもちろん、経験も必要だと思います。まだまだ知識も経験もない私ですが、患者さんのニーズに沿った支援ができていくのを常に振り返り、考えながら支援をしていくよう心がけていきたいと思います。事例を提供してくださった琉球病院の昌川さん、ありがとうございました。

事例検討のあとはアソシアの施設見学をさせていただきました。施設内はオシャレな雰囲気、カフェの方もお客さんも多く賑わっていました。その場に実際に利用者の方も入り、接客や調理等カフェの営業に関わっているとの事。実践の場を通して訓練が行えるのはとても魅力的でした。当日カフェの方には行けなかったのですが、今度是非行ってみたいと思います!

事例検討、施設見学と有意義な時間を過ごせました。ありがとうございました。

2013年9月定例会報告

日時：平成25年9月7日(土)～9月8日(日)

場所：沖縄県総合福祉センター 東棟(5階)501教室

テーマ：基幹研修Ⅰ

参加者：19名

【概要】

精神保健福祉士の職務に関する知識・技術並びに倫理・資質の向上を図ることを目的として創設された生涯研修制度により、沖縄県精神保健福祉士協会が日本精神保健福祉士協会



より事業を受託された研修。

その中でも今回の「基幹研修Ⅰ」は基幹研修の中でも基礎となる部分で、日本精神保健福祉士協会入会から3年未満の構成員を対象に行われる研修。

【感想】報告者：糸満晴明病院 地域医療相談課・譜久村寛大

国家資格を取ってから早半年。日々の職務に追われる中で精神保健福祉士になったときの喜びや感動、使命感、価値観を少し置き去りにしていたような気がします。今回の基幹研修Ⅰを終えた頃、あの頃の感覚をもう一度取り戻したような気がしました。

1日目のプログラムでは、3名の講師による精神保健福祉士としての倫理観や専門性を精神障害の歴史、Y問題、沖縄県の精神保健福祉士の歩み、PSWの価値等のテーマに沿って学ばせていただきました。先輩PSWの方々や当事者や家族等のレールの上に自分たちがいて、その反省や思いの中で今教わっている倫理綱領があり、実践があり、大切にしつつ発展させていくべきなのかなあと考えました。

2日目のプログラムでは、3名のシンポジストの実践を聞き、精神保健福祉士としての業務の奥深さを学びました。皆さんの実践や経験は、今の自分とかけ離れているところもあれば、「先輩の前で電話対応したくないなあ」とか「どの範囲までの支援が適切なの？」などの共感できる部分を見つけ、普段の自分と照らし合わせることもでき、後日からの実践の参考になりました。

1日目・2日目ともプログラムにあった「演習」では、先輩方の輪の中でグループディスカッションを行いました。皆さんそれぞれの経験や経緯があり、見習わなきゃなあ・・・と思う反面、悩みや迷いもあり、先輩でも失敗や苦い経験を乗り越えての今があるんだなあ・・・と少しホッとしました。明日からの実践でも悩み迷い、何かあれば相談し、1つずつ積み重ねていこうと思える演習でした。

今後自分がこの業界で成長していくために、忘れていた部分や気付かされる部分、確認できた部分が多かったです。今後も今回のテキストやレジュメを開き、この日のことを思い出しながら日々の業務に活かしていこうと思います。今回の研修を開いていただいた方々や講師を請け負ってくれた方々には、頭の下がる思いです。本当にありがとうございました。

【感想】報告者：社会医療法人 南部病院 大島丈司

私は、社会医療法人 南部病院 地域連携・相談室で勤務しています。南部病院は総合病院（一般病棟・亜急性期病棟・回復期病棟・緩和ケア病棟の入院機能を持っています。）には精神科病棟の機能はありません。その為、私も一般病棟を担当していますが、精神科領域での活動経験は0年の新人です。PSWの資格は5年前に習得しましたが・・・。

今回の研修は2日間に渡るハードスケジュールの中行われました。（雰囲気は運営委員会の方達が配慮したと話されていた通りアットホームでリラックスして参加することができました。）

研修では、日本精神保健福祉士協会や沖縄精神保健福祉士協会のあゆみや活動内容、又、実際に現場で業務を行っている諸先輩の活動や初任者時の葛藤を通し精神保健福祉士として非常に重要な視点（人権擁護）や自己研鑽の重要性を学ぶ事ができ、これまでの自身の支援活動を振り返る事ができた。また、グループワークではそれぞれが日頃抱えている思いや悩みを打ち明け、所属機関にかかわらず同じ支援者としてざっくばらんに意見が飛び交い連帯感やPSWの楽しさを再認識でき、翌日からの支援に向き合う勇気をもらうことができました。

最後に今回の楽しく実りある研修を企画・運営して頂きました講師・スタッフの方々、『ありがとうございました。』

【感想】報告者：いずみ病院 糸数幸乃

基幹研修Ⅰでは、協会の変遷や法律の制定や改正、人権に関する問題や様々な現場での実践、などを学びました。PSWは職域に広がりを見せ、その立場によって求められる役割は違っているが、根底にあるものは同じで当事者の主体性を大切にすることや自己決定を尊重することを基礎を学ぶことで再確認しま

した。また、人権に関わる問題や事件は決して過去の出来事ではないと、専門職として心に留め自己点検を忘れてはならないと感じました。

講義の中で「一人前のPSWって？」とあり、一人前ってどういうことだろう、一人前っていつなるんだろうと考えていました。「一人前」と私が自分で決めてしまったら傲慢になってしまったり、「一人前」以上には成長できなくなってしまうのではないかと。私たちPSWは業務になれたとしても、日々いろんな人に出会って、いろんなストーリーがあって、支援やかかわりが違って、何一つとして同じものはないんだと感じました。

研修の内容は私にとって自分自身の振り返りになるとともに、私のこれからのPSWとしてのあり方を考えさせられるものになりました。講師やシンポジストの方々の謙虚で優しい姿がとても素敵に映り、やっぱりPSWっていいなあと再確認しました。

【感想】報告者：玉木病院 照屋美香子

私がPSWとして働いてから、1年半がたちました。就職当初の右も左もわからなかった頃と比べれば、病院の一職員として働けるようになってきていると感じます。しかし業務をこなして迷うこと、困難に感じることは未だに多く、PSWという職業について考えさせられる毎日でした。そんななか、去った9月7・8日に、基幹研修Iを受講する機会をいただくことができました。

各講義では、精神障害者やPSWの歴史、PSWの専門性を学び、実際の現場での活動についても聴かせていただきました。精神障害者の歴史を語るうえで欠かすことのできないY問題ですが、これまでは正直のところぼんやりとしたイメージしかありませんでした。しかし、今回の研修で現代の私たちにとっても身近な問題であること、知らぬ間に同様の状況をつくってしまう可能性を秘めていることを知りました。

本研修で、私が最もありがたく感じたのは、グループでの演習の時間でした。普段はなかなか関わることのできない、経験年数も働く場所もさまざまなメンバーから、いろんな話を聴かせて頂きました。私が抱いていた疑問や不安も、実は皆も経験していたことだったとわかったときには、安心と心強さを感じました。

本研修で得ることのできたたくさんの刺激や視点を大切に、今後も自己研鑽に努めたいと思います。貴重な機会を与えていただき、ありがとうございました。

事務局だより

事務局長 笹木 徳人 (新垣病院)

会員の皆さん、いよいよ今年も残すところあとわずかとなりましたが如何お過ごしでしょうか？今年のクリスマスイブも一人で過ごす予定です・・・。

今年は「まじゅん」の発行がなかなか出来ず、会員の皆様へご迷惑をおかけした事を深くお詫び申し上げます。

一般社団法人化して早2年が経過しますが、まだまだ手探り状態の毎日が続いております。正直こんなに苦勞するとは思っていませんでしたが、法人格を取得した事で行政や他団体からの注目も多くなっている事も確かです。今年は県からの業務委託もありましたが、来年は今年より更に忙しくなると思っていますので、会員の皆様のご協力を心よりお願いしたいと思います。

皆さん、今年1年お疲れ様でした良いお年を！

～会員の皆様へ 会費納入のお願い～

☆ 会費口座引き落としの手続きはお済みでしょうか？まだの方はお早めに手続きをお願いします。

★お便り大募集！！★

会員の皆さまからの情報・報告・投稿・作品(詩やエッセイなど何でも!)をお待ちしています。
また、当協会へのご意見・ご要望などお寄せ下さい。送り先はPSW協会メールへお願いします。